

市民と市長との対話集会 初の「聞きたかけん」開催 市長が田村の子育て交流サロンを訪問

「子育て」をテーマに語り合う

吉田市長が直接市民の声を聞き、市民と一緒に福岡のまちのあり方を考える対話集会「聞きたかけん」の1回目が、田村老人いこいの家(早良区田村四丁目)で4月26日に行われました。

会場には、子育て交流サロン「ここにランドたむら」を訪れた親子や子育てサポーター(支援者)が数多く集まりました。この子育て交流サロンは、田村老人いこいの家と隣接する公園内のグラウンドを会場にして、月2回開設しており、まずは市長がその活動を見学。市長はサポーターから話を聞いた後、青空の下で遊ぶ親子に気軽に声を掛けていました。

その後、サポーターや約15組の親子を交えて、「子育て」をテーマにした市長との対話が始まりました。



田村老人いこいの家(早良区)で行われた第1回「聞きたかけん」では、市民から積極的な質問や意見が出ました。後ろ姿が市長

子育ての理想は地域の協力体制

「ここにランドたむら」のメンバーでもある田村公民館館長の平井信子さんが、子育て交流サロンの活動を説明。「校区の老人クラブの好意で会場を借りたり、近くの保育園の保育士さんに協力してもらったりして運営しています」と地域全体の協力があることが、ここに来るようになって友達ができた」と言うのは、2歳になるなみちゃん(36)。子ども同士が仲良くなるのをきっかけにお母さん同士も顔見知りになり、子育てに疲れたときな

「月に2回の交流サロンは、実家に帰るような安心感がある」ともっと広いスペースがほしい、「サポーターの輪を広げることが課題」といった参加者の声も聞かれました。市長は「子育てが地域の皆さんの協力でできていることに感動しました。また子育ての輪が次第に広がっていることはすばらしい」と感想を述べました。

参加グループを募集中

「聞きたかけん」の参加グループを5月25日(必着)まで募集しています。懇談テーマは①子育て②防犯・防災③福祉・健康④環境⑤まちづくり・地域づくりです。応募要領の詳細は市ホームページまたは公民館などで配布しているチラシをご覧ください。

子育てママの輪が広がって

「ここにランドたむら」で、子育てサポーターの中心的役割を果たしているのは、保育士をしている赤池礼子さん(56)です。「サロンに参加しているお母さんたちが、スーパーで同じ年ごろの子を持つお母さんにも声を掛けるなど参加者の輪が広がって、昨



市民の声に思わず笑みがこぼれる市長

連載 思づくまち。アイランドシティ 2.

市立病院統合移転事業の検証・検討

新病院基本構想の概要

今回は検証・検討の対象としている「新病院基本構想」についてお知らせします。

策定の経緯

市民の医療ニーズの多様化や医療技術の高度化など医療を取り巻く環境が大きく変化の中で、市立病院が担う役割の重要性が増しています。そこで市は「市立病院事業運営審議会」(会長・桑野信彦九州大学医学部長(当時))からの答申などに基づき、平成17年12月、(こども病院 感染症センター)「中央区唐人町」と「市民病院」(博多区吉塚本町)を移転統合し、医療機能を再編した新市立病院をアイランドシティに建設する内容の「新病院基本構想」をとりまとめました。

受け入れていますが、病床数不足が深刻であり、また、産科が併設されていないため、高齢出産などニーズの高いいわゆるハイリスク分娩に対応できない状況です。

市民病院(一般病床200床)は、地域に不足する高度専門医療、特に肝臓・腎臓の疾患に対して専門的医療を提供していますが、今後は、「がん」はもとより救命救急の基盤となる脳・心臓・循環器等の疾患に対応できる体制の充実・強化が課題です。

両病院ともに比較的小規模であり、統合により経営効率の向上が期待されます。また、特にこども病院は老朽化が進んでいることから、今後建て直しが必要となる時期を迎えます。

候補地を選定した基準

建設予定地の選定については、土地の広さ、取得可能な時期などから九州大学六本松キャンパス跡地、アイランドシティ、伊都区画整理区域内の3か所に絞り込み、全市的な医療機能の配置バランス、療養環境の確保、拡張性、関連施設の立地可能性などの観点と比較検討を行いました。特に、▽全市的な医療機能の配置では、救命救急センターや母体・新生児に総合的

に対応できる「母子医療センター」。

新病院の特徴

■次世代を育成する「成育医療」
○ハイリスク分娩や低体重児出産に対応する総合周産期母子医療センター
○疾患を持つ子どもたちの成長に伴う継続的支援
○子どもの心の問題にも幅広く対応

■市民の安全安心を守る「危機管理医療」
○365日24時間対応する救命救急センター
○感染症医療センター
○災害拠点病院

施設概要

○建設予定地 アイランドシティ中央公園西隣
○敷地面積 約50,000㎡
○延べ床面積 約45,000㎡
○病床数 414~470床程度

■アジアへ発信する「高度医療」
○高度先進医療(肝臓病センター、循環器センター、脳神経センターなど)
○アジアの患者の受け入れやアジアを中心とした研修員等の受け入れ
* 周産期医療(妊娠、出産から新生児に至る総合的な医療のこと)

問合せ先

市立病院担当(☎7111-4271) ☎7333-5535
355 メール byoin.ph.wb@city.fukuoka.jp
アイランドシティ事業検討担当(☎7111-4003) ☎7333-53003 メール island-kento.GAP.B@city.fukuoka.jp

市立病院担当(☎7111-4271) ☎7333-5535
355 メール byoin.ph.wb@city.fukuoka.jp
アイランドシティ事業検討担当(☎7111-4003) ☎7333-53003 メール island-kento.GAP.B@city.fukuoka.jp

この構想はパブリックコメントの意見等を踏まえて検討・策定されたものです。一方、市民に十分な理解を得ていないと思われることから、客観的な観点から検証し、必要な検討を行うことにしました。

市立病院の現状と課題

こども病院・感染症センター(小児病床190床・感染症病床24床)は、小児の高度専門医療機関として先天性心疾患などの患者を

に対応できる周産期医療センターが市の中央部と西南部に位置していることから、東部地区へ立地することで全市的な医療体制の強化が図られること▽小児医療にとって必要なアメニティ(療養環境)の面では、子どもたちの「憩い」や「やすらぎ」の空間が、隣接するアイランドシティ中央公園や周辺等に確保可能なことなどを総合的に勘案した結果、アイランドシティを建設予定地として選定したものです。

市立病院(一般病床200床)は、地域に不足する高度専門医療、特に肝臓・腎臓の疾患に対して専門的医療を提供していますが、今後は、「がん」はもとより救命救急の基盤となる脳・心臓・循環器等の疾患に対応できる体制の充実・強化が課題です。

